

天敵に優しい農薬で押し寄せてきた ハスモンヨトウを完封防除

ビデオ「減農薬害虫防除編」より

農文協ビデオ撮影隊

ハスモンヨトウの
大移動に出くわしたのだ！

昨年の秋、猛威を振るったハスモンヨトウ。そのハスモンヨトウがイモ畑を食い尽くし、となりのハクサイ畑に殺到するその場面に、撮影隊は出くわしました。

夜盗虫というほどですから、夜に移動するかと思いきや、真つ昼間、堂々の大移動です。その数たるや半端じゃありません。しかも、普及センターが発生予測用に仕掛けたフェロモントラップには、五〇〇頭ものハスモンヨトウの成虫がギッシリと詰まっているのです。

これじゃ、クモが増殖したといっても、とても食い尽くせるもんじゃない。天敵の役割を映像に収めたいという、ビデオの企画そのものに「？」がついたのでした。

ところが、ところが、そんな中で内田政之助さんの圃場では被害が皆無だったのです。

**被害皆無の秘密は天敵に
優しい農薬選択にあつた**

ハスモンヨトウの被害を完封した秘密というのが、内田さんの殺虫剤の選び方にあつたのです。それまでののべつまくなしにやつつける非選択性殺虫剤から、天敵に優しい選択性殺虫剤に切り替えた



手作りフェロモントラップにギッシリ詰まった500頭ものハスモンヨトウ成虫

ことで、殺虫剤と増殖した天敵のダブル防除効果でハスモンヨトウの被害を免れることができたのでした。

しかし、納得がいきません。そこで奥さんにも確かめました。

「はじめは、自分だけ変わったことをして、被害出すようじゃつまんないって、反対したんです。それが、収穫しても被害がないんです」

撮影隊はそれでも納得できません。なにせ、ハスモンヨトウ一頭生き残っても四〇〇個の卵を産みます。クモが食べるだけじゃとても追いつけ

ない増殖能力をハスモンヨトウは持っているのですから。

天敵の防除効果は

食べるだけじゃなかった！

あれこれ探求した結果判明したのが、クモの追い散らし的な防除効果です。

卵塊から孵化した四〇〇頭のハスモンヨトウの赤ん坊は集団で生活しないと死んでしまう性質があります。その集団にクモがちょっかいを出し、バラバラにしてしまうのです。



1個の卵塊から生まれ集団生活をする400頭のハスモンヨトウ弱齢幼虫

こうなるとは、四〇〇頭のハスモンヨトウも一気に減少、農薬の効果も合わさって、生き残りは、わずか数頭になってしまつたのです。

天敵のクモはハスモンヨトウを皆殺しにはできません。しかしその追い散らし効果とクモに優しい農薬のおかげで、内田さんの奥さんが、「被害はない！」と判断するほど、その増殖が抑えられたのです。

このように天敵に優しい選択性農薬の防除体系（天敵の力を生かした害虫管理を「IPM＝総合的害虫管理」と呼んでいます）は、露地ナス栽培でも効果を発揮、農薬散布回数が八割も減少した成果も取材できました。

老眼農家でも役に立つ ノウハウを映像で提供

欧米で発達したIPMの考え方では、害虫の発生や増殖の観察が大きな柱となります。日本でも天敵農薬として利用されているチリカブリダニやコレマンアブ

ラバチなどを上手に使うためには、害虫発生の確認や、天敵の効果の確認がどうしても必要とされます。

しかし高齢農家に、小さな害虫の観察はなかなか難しい。そこでビデオでは、害虫や天敵農薬の観察の仕方はもちろんのこと、内田さんのような農薬のスケジュール防除も紹介し、高齢者でも生かせる技術を紹介しています。

ビデオ環境保全型農業シリーズ

減農薬害虫防除編 全四巻

- No.1 総合的害虫管理IPMの基本
- No.2 農薬半減！害虫管理の実際
- No.3 天敵が住着き働く圃場づくり
- No.4 散布回数を減らす防除作業

各巻 五分各一万五〇〇円（税込）

企画・制作（社）農文協

協力 農林水産省環境保全型農業対策室、埼玉園芸試験場他

発行

No.1・2 平成十二年三月

No.3・4 平成十二年八月